

総評

今期建設業は、中東情勢の緊迫化に伴う資材不足や価格高騰により、調達遅延や工期延長を余儀なくされたほか、県公共工事の発注見合わせも発表されるなど、厳しい経営環境に直面した。製造業や卸売業においても、原油価格の急騰や資材供給の遅れが直撃し、調達コストの大幅な上昇や物流コストの増大が収益を圧迫。一部では取引先からの見積り停止や新規取引の制限といった事態もみられ、事業活動に混乱をきたした。小売業では、物価高騰による消費者の節約志向から衣料品の低迷が続く一方、家電は新省エネ基準の導入を控えた駆け込み需要でエアコン等に動きが見られた。また、供給の安定化や新型車投入が寄与した自動車も堅調に推移するなど、業種間で明暗が分かれた。スーパー等では包装資材の高騰を販売方法の工夫で補い、売上は概ね前年並みを維持した。サービス業や特産品販売は、ドラマ「ばけげん」効果の継続に加え、アジア圏を中心としたインバウンド客の増加が追い風となり、観光シーズンに合わせて好調に推移した。

来期は、夏休みや各種イベントに伴う人流拡大、「ばけげん」による注目度の維持が期待される一方、依然として不安定な中東情勢によるコスト増への警戒感が根強い。建設業では記録的な酷暑による作業効率低下や熱中症対策コスト増加への対応が喫緊の課題となっている。また、原材料の不安定な調達状況に備えた供給網再整備、深刻化する人手不足に対応するための生産性向上、そして断続的なコスト増を前提とした収益構造の抜本的な再構築が、地域経済全体の持続可能性を左右する重要な課題となっている。

		前期状況 (1～3月期)	今期状況 (4～6月期)	来期見通し (7～9月期)	調 査 事 業 所 の コ メ ン ト
建設業		➡	➡	➡	今期は、中東情勢の悪化を背景とした資材不足や価格高騰に伴い資材の流通が安定せず、調達遅延による工期延長を余儀なくされたほか、島根県の公共工事の発注の見合わせも発表されるなど大きな打撃を受けた。製品によっては6月から一部入荷再開の兆しもあるなか、来期は昨年同様酷暑が予想され、現場の作業効率低下や熱中症対策に伴うコスト増加への対応が課題となっている。
製造業		➡	➡	➡	今期は、中東情勢の緊迫化に伴う原油価格の急騰と、依然として解消されない資材供給の遅れにより、調達コストの大幅な上昇に直面。物流コストの増加も相まって経営環境は厳しい局面が継続。来期は、塗装用シンナー等一部特定の資材において発注に制限がかけられている現状が今後も続いた場合の製造ラインの停止といった、原材料調達のさらなる不安定化による経営の先行きに対する不透明感が拭えない状況が続くと予測。
卸売業		➡	➡	➡	今期は、建築資材関係や機械器具関係を中心に、原材料価格や仕入価格の上昇、調達の長期化・困難化の影響を受け、業況は悪化傾向にある。エネルギー価格や原材料価格の高止まりに加え、一部事業所では取引先から見積りの停止や新規取引の制限を受けるなど、事業活動への影響がみられる。来期については、価格転嫁の遅れや需要動向の不透明感に加え、原材料価格高騰等の影響長期化による収益悪化や資金繰りへの懸念が聞かれている。このため、原材料の安定供給に向けた支援や制度融資の拡充を求める声がみられる。
小売業	衣料品	➡	➡	➡	今期は、生活必需品の物価高騰による節約志向や外出控え、需要の停滞などの影響を受け、来店客数の減少と売上の低迷が続いた。また、商品在庫が多い状態に加え、仕入価格や人件費の上昇が利益に影響を及ぼし、採算は悪化した。一部では店舗の老朽化も経営課題で、総じて厳しい経営環境が続いている。
	家電	➡	↗	↗	来期は、売上や来店客数の回復、利益の改善を期待する動きが見られる一方、物価動向や消費者の節約志向など先行きへの不透明感から慎重な見通しを示す企業も少なくない。今後は、需要に応じた適切な在庫管理や消費者ニーズを的確に把握することで、収益の回復につなげていくことが期待される。
	自動車	➡	↗	↗	今期は、メーカーにより状況は異なるものの、新車の供給も安定しつつあり、改良モデルや新型車の導入等の効果も重なり総じて新車登録台数は増加。一方で軽自動車の新車登録台数は微減。
	スーパー	➡	➡	➡	来期は、物価上昇による消費マインドの弱さが目立っているものの、消費者志向の多様化や環境対応車の拡充、さらに新型車の投入を起因とした市場の活性により、登録台数が伸びるものと予想。
	特産品	↗	↗	↗	今期は、物価高の影響による節約志向が続く中、売上や客足は概ね前年並みで推移した。食品トレイやラップをはじめとする包装資材の価格高騰が続く一方、価格転嫁が難しい場面もあり、コスト抑制や販売方法の見直しなどの工夫がみられた。来期は原材料費や人件費の上昇による収益圧迫が引き続き懸念される中、昨年は集中豪雨の影響で客足が鈍化したことから、今年は天候に恵まれ、安定した集客につながることを期待する声が聞かれた。
	飲食	➡	➡	➡	今期は、NHK連続テレビ小説「ばけげん」の効果が引き続き見られ、前年同期と比べて売上はやや増加傾向にある。また、台湾をはじめとするアジア方面からのインバウンド観光客も増加傾向にあり、土産品需要を中心に売上を押し上げている。来期は、お中元需要は減少傾向にあるものの、「ばけげん」の放送効果による松江への注目度の高まりが続くことから、地元特産品の需要拡大に期待したい。
サービス業	旅館・ホテル	➡	↗	↗	今期は、4、5月の観光・イベントシーズンに入るとともに、「ばけげん」効果による観光客増から、好調に推移した店舗が多かった。物価高を踏まえたメニュー価格の見直しや平日需要の掘り起こしも不可欠となっている。
	運輸・旅客	➡	↗	➡	来期は、夏休みシーズンに入ることから、各種イベント等をきっかけに集客アップを目指したい。
		➡	↗	➡	今期は、「ばけげん」効果の継続により、前年同期比で来客数が増加した。昨年は万博の影響で関西圏への需要が集中していたが、今期はその需要が分散したことにより来客数が増加したと考えられる。来期は、夏休みの需要を期待したいが、猛暑の影響により、個人旅行の需要に変化が予想される。中東情勢を注視しながら、近隣県からの自家用車で来松する観光客に期待したい。
運輸・旅客		➡	↗	➡	今期は、「ばけげん」効果が続いており、特にタクシー・バスについては観光客の利用が増加し順調に推移している。運送業では、中東情勢の影響により燃料価格が高騰し利益確保に苦慮している。併せてドライバー不足による輸送能力低下が懸念されている。人手不足や燃料費の高騰が業界を取り巻く経営環境にさらに厳しさを増している。来期については、中東情勢の改善や旅客運送業では夏季旅行需要や継続した「ばけげん」効果に期待する。

※売上の前年同期比について ➡ ➡ ➡ により表しています。